

序

島や半島は古くから地理的に興味ある対象地域とされてきた。島の生活には古い姿がよく残されているが、特異な現象も少なくなかった。また半島においては、島と共通するところもあるが、特にネックから岬への移り変わりや、文化の吹きだまりのような袋小路的環境に探索的興味をそえられるものがあった。そういうことから、資料収集といった形の調査が活発となり、それから長い間それなりの成果を収めつつ、今日においてもすたれてはいない。

地理学方法論の世界で地域性がクローズアップされてくると、ここでは島嶼性、半島性、さらに岬端性といった用語が目につくようになった。このことは、島独自の性格、半島およびその先端にみられる特殊性といった問題の追究に焦点が当てられてきたことを物語っている。これは島や半島をただ調査の対象地域として取り上げるだけでなく、それらは他の地域と異なる特殊な地域であるとする仮定に立つての考察であって、この時期において、本質的な問題提起といった方向がかなりはっきりしてきた。

ところが、島や半島が他の地域と区別される前提に、多くの場合孤立的あるいは隔絶的な環境支配を重視する考え方が存在していたことは否定できない。また島や半島は水圏によって陸地が限られている地域、という共通的な条件支配を意識していたことも否定できない。しかしそれらの多くは、具体的に

つかまれたものではなく、単なるイメージ程度にとどまっていたにすぎなかった。だからややもすると、かかる前提が問題解決のきめ手となるような矛盾を招く危険性も少なくなかった。

そこで、島とか半島とか安易に指摘してきた対象地域の概念的構成という基本的な問題への模索がはじめられるようになってきた。おおざっぱに言えば、島、半島、その他の地域とはいったい何か。また特殊性とは何か。そういうものが存在するのかどうか、といった問題。島や半島の地域的限界は具体的にどう把握されるか。隔絶性、孤立性についても同様に地域的概念構成の一環として、いずれも実験、実証的な手段を通して確かめなければならない、という問題である。とはいうものの今のところ、島や半島に関する概念についても共通的な見解の統一をみるところまできているわけではない。まして、その他の地域（大陸・本土・地方^{じかた}など）と島・半島との結びつき、それぞれの間の隔絶・孤立に関する追究は著しく遅れている。今後に残された課題として手ごわい相手には違いないが、これからも続けられるであろう個々ばらばらな地域的研究態勢の中で、少なくとも本質的な問題意識をふまえた実証的な方向だけは失いたくないように思われる。

末尾ながら、本書の上梓に際しては財団法人畠山文化財団から多額の助成金を賜わったことを付記し、ここに謝意を表する。

昭和五十六年十一月